令和５年度　有年中学校区小中連携教育　活動記録

１　令和５年度　小中連携教育研究部会具体的実践

〇小・中学校相互の授業研究を通して、子どもたちの実態の相互理解につとめる。

〇算数と数学の内容の系統性を把握し、指導の継続性を求めて、指導の改善を図ることにより、小・中学校９年間を見通した指導の相互理解につとめる。

２　有年中学校区の活動報告

（１）有年中学校

〇実施日：令和５年９月２１日（木）　　〇単　元：１年数学科「一次方程式」

〇事後協議

・算数科の用語を正しく使って、順序立てて説明することができていた。

・中学校では問題の量を多くこなすことが大切だと思うが、小学校では対話や意見交流の時間を取り入れるので問題量が少なくなってしまう。

・計算間違いに自分で気付くことができるように、振り返りの時間の確保が大切。

・有年小では、算数科のノートづくりに力を入れている。まとめる力・発見できる力がつくように段階を追っていくことが必要。

・理解がむずかしい児童生徒には、その子に合わせた支援が必要。

（２）有年小学校

〇実施日：令和５年１０月３日（火）　　〇単　元：６年算数科「比とその利用」

〇事後協議

・５年～６年と系統的に指導してきているので、ポイントを自分で書き込むなどの工夫あるノートづくりが定着している。

・考える時間をとると学習が進まないこともあるが、この考える時間が必要。

・中学校での学習につなげるためには、基礎内容の定着が必要となる。

・思考の対話で、主体的・対話的で深い学びにつながっていく。中学校でもぜひ、取り入れてもらいたい。

・小学校のパターンから中学校へのスムーズな移行・連携、深化・拡充で確かな学力につながる取組が大事。

（３）原小学校

〇実施日：令和５年１１月２１日（火）　　〇単　元：６年算数科「比例と反比例」

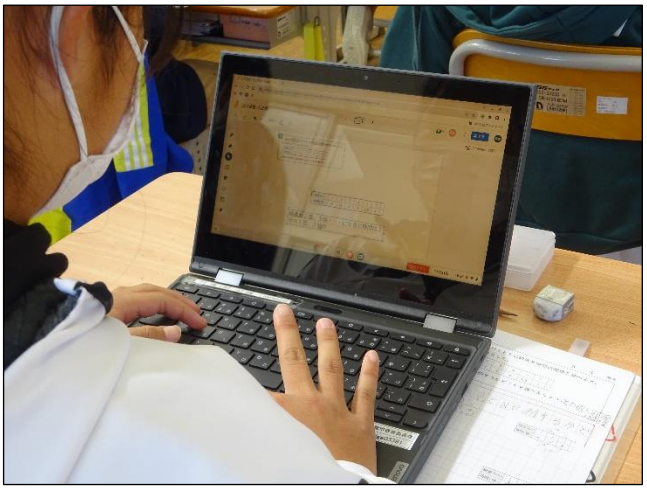
〇事後協議

・タブレットを使って一生懸命考えていたが、無機質な授業にならないような工夫が必要。使い方はむずかしい。

・５年生で既習の「速さ」の学習と関連させた展開でもよかった。学年や前時のつながりを意識した授業展開が大切。

・児童の思考について、違いを生むしかけやさまざまな考えが出るしかけなど、教師側の工夫が必要。

・「比例・反比例」を学習するよさは？なぜ学ぶのかを考えさせておかないと、やらされていることになる。



３　まとめ

算数科・数学科のように、基礎学力と系統的な学習内容の積み重ねが必要とされる学習においては、小中学校相互の学習内容のつながりと指導方法の連携・深化・拡充が不可欠である。小中９年間の学びの連続性を意識した授業実践をさらに進めていきたい。タブレットの効果的な活用や適応題の工夫など、児童生徒の意欲が持続する授業づくりをめざしたい。

また、少人数での学習の利点を生かし、「なぜ学ぶのか」「何に活かせるのか」を意識させ、問題を自分事としてとらえ、対話を取り入れた解決方法を思考する主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究を継続していきたい。